

設立趣旨書

1 趣旨

(社会的背景や現状)

九州は戦後植林された 60 年を超える木材が多く生育しており、それを活用し、再造林を行い、再び活用するという山の循環が求められます。しかし、昨今は、人口減少や住宅需要の大幅な低下により、木材の需要が減り、その結果、林業従事者の減少、製材所の廃業が相次いでいます。また、大工はプレカットに代わるなど、これまでの技術、技術者の断絶が加速しています。

また、木材の活用については、分業化による経済主義による工学的な建築の構築ばかりが考えられ、広く生物学的、農学の分野から山を考えることが見逃されていると思われます。つまり、単に木材の利用のみを考えるのではなく、林業従事者の職能や職の安定を考え、さらに、その先には山の循環、その恵みに支えられている都市まで広く視野にいれる必要があるのではないかと考えます。

(問題・課題)

上記のような現状に対して、福岡を拠点とする一級建築士のチームが主体となって「モクラボ」活動を始めました。「モクラボ」とは、木(モク)を学び、研究する場(ラボラトリー、ラボ)を提供する活動です。もともとは「都市木造防耐火勉強会」として結成されましたが、木造建築について深く研究するにつれ、単に建築物のあり様を提示するあり方に留まらない活動が必要だと痛感しました。

その理由の一つは、伐採・原木(丸太)の販売・造林・保育といった森の営みや木材の生産・加工・流通を知り、古くから森林資源を健全に循環させて持続可能な社会を形づくる中で日本人独自の木造文化が育まれてきたことを再認識したうえで、新たな森林経営・木材利用と共にこれからの木造建築を学ぶ必要があると考えるようになったことです。この中には合法木材・森林認証などの木材デューデリジェンスも含まれます。

もう一つは「九州」という土地に立脚して、森の営みや森林資源の循環等を考える必要があるということです。鋼材やコンクリートは全国的にほぼ同一の条件で入手することができます。ところが木材は地域に適した樹種とその地に培った産業基盤に強く影響を受けます。現在の九州はスギ・ヒノキの住宅用流通製材を主な生産品・流通品としています。また同じ九州でも北部と中南部では林業・木材産業の経営規模に大きな開きがあり、他方で福岡市・北九州市という二大都市圏に九州の木材消費が集中しているため、一概に地域材利用、地産地消、地産都消と唱えるだけで今日の木材利用のあり様を改善できるものではありませんでした。

(解決策・実施してきたこと)

当初は、福岡を中心としてモクラボ活動を継続しておりましたが、次第に九州の他県の一級建築士の共感を得て、九州という単位で、九州を拠点したモクラボを行うようになりました。また、活動地

域の拡大のみならず、職種についても建築士以外に、加工者、職人、製造者、さらに林業、木材関係者と一緒に協働していく方向へと拡大を続けています。

そして、広く九州全域から、木材に係る様々な職種の方たちと、毎週リモートによるアサカツを定期的におこない、木造建築を考える上で、新たな森林経営や木材利用、そして広く森の営みや森林資源の循環まで視野に入れ、モクラボ活動による情報交換、研究、交流を継続しております。

(目標・どのような社会の実現を目指すか)

広く九州全域から、木材に係る様々な職種の方たちと「モクラボ」の活動を行うことで、まずは山の循環という、九州の木材の利用・再造林・再利用の流れを樹立していきたいと考えています。そうすることで、これまで山を活用し守ってきた林業関係者が活性化し、九州の山村・中山間地域の振興と環境の保全が達成できると考えます。また、九州に残された歴史的建造物を再発見し、その地域に暮らす人々と、適切に保存しつつ活用することで、九州の風土に合った健やかなまちづくりの推進が可能になると考えます。そしてその活動は、九州固有の伝統的な工法を再評価し、未来へと繋いでいくことに通じます。

そして、九州での自給自足の地産地消システムという成功事例を日本の先進事例とし、広く世界に発信することで、世界に日本の資源をPRする絶好の機会となると考えます。それができるのは、ひとつのまとまりのある九州しかないと考えています。というのは、国境を超えた経済の連鎖は、輸送・物流コストが、大量生産及び大量消費により、地域生産コストより安いという経済価値だけで動いていることから成り立っています。そのような経済の連鎖は、それを支える状況が崩れれば、世界的な経済の混乱を招きます。ですので、広くグローバルなシステムは活用しつつも、ローカルなベースはしっかりと確立して、私たちが生きるこの地域で経済活動を活性化させる必要があります。そしてその地道な経済活動は、森林と共にある日本の国土において、木材をかけがえのない資源として、他の豊かな自然とかかわりながら、持続可能な未来への光となると確信しています。

(法人格が必要となった理由)

今回、法人として申請するに至ったのは、任意団体で実践してきた活動を地域に定着させて継続的に推進していくこと、林業・木材産業・木造建築の関係者が共に等しく連携できる体制を整えること、関連する行政・他団体との連携を深めていく必要があることから、社会的に認められる公的な組織にしていくことが最良の策であると考えたからです。

また我々の活動は営利目的ではなく、多く一般の方々に参画してもらう必要があるため、特定非営利活動法人格の取得が最適であると考えました。法人化することにより、組織を発展でき、より公にモクラボを展開できるようになり、九州の、引いては日本の林業・木材産業・木造建築に広く貢献できると考えています。

ここに「NPO 法人モクラボ九州人」を設立し、特定非営利活動法人格の取得を申請します。

2 申請にいたるまでの経緯

2019年(令和元年)6月 都市木造防耐火勉強会 開始

2019年(令和元年)10月～翌1月 一般社団法人九州経済連合会(九経連) 木造ビル標準構造モデル作成事業に参加。

2020年(令和2年)4月 任意団体 Fukuoka Timber Building Lab (FTBL)を設立、アサカツ(毎週火7時半～8時半の早朝勉強会)を中心にモクラボ活動をスタート。代表に倉掛健寛が就任。

2020年(令和2年)7月 木造ビル標準構造モデル作成事業の成果報告会にて「モク三ビルモデルプラン」を発表。林業部会会員となる。

2021年(令和3年)1月 九経連農林水産委員会林業部会(現 地域共創委員会 林業専門部会)の下部に「モクビル研究会」が設置されて、研究会リーダーを当会代表が務める。

2021年(令和3年)2月 福岡県木材組合連合会が発行した地域木材利用促進リーフレットにモク三ビルモデルプランが採用される。リーフレット制作業務を受けて作成。

2023年(令和5年)10月 モク三ビルモデルプランを基にした実物件「医療法人博愛会 頼田病院 在宅医療センター(福岡県飯塚市)」を竣工。

2024年(令和6年)3月 特定非営利活動法人「NPO 法人モクラボ九州人」設立総会を開催。認証を受け次第、FTBL から「NPO 法人モクラボ九州人」へ組織改編予定。

令和6年3月19日

NPO 法人 モクラボ九州人

設立代表者 住所 XXXXXXXXXX
氏名 倉掛 健寛